

バイオマス利活用施設の概要

作成日：平成 19 年 8 月

作成者：(株)エックス都市研究所

	【施設名称】 四賀村有機センター
	【事業主体】 四賀村
	【所在地】 長野県東筑摩郡四賀村（現松本市）
	【運転開始年】 平成 11 年
原材料および利用量	鶏ふん（発生量約：4,200t/年）
生産物（種類）	たい肥約 400 t /年
利用方法	鶏ふんを持ち込んだ農家が 3 分の 1 を買い取り、それ以外は袋詰、フレコン、バラなどで一般に販売し有機栽培に利用。
導入目的・経緯	農地還元、自然環境の保全・改善を目指すことを目的に稼働させた。
設備仕様	敷地面積 16,000 m ² 建物面積 5,420 m ² 原料計量・調整・副資材置場、1・2 次発酵槽、格納庫、運搬車両、事務所等 施設処理能力：40.5t/日
稼働状況	(時間・日/年・月・週・日)土日年始を除く毎日稼働
経済性関連データ	補助事業名：平成 10 年度山村振興等農林漁業特別対策事業（地域資源循環活用施設）・平成 13 年度環境衛生改善事業 補助主体：国 施設整備費 669,000 千円
導入効果	製品のたい肥を使用した有機栽培が村内に浸透してきている。有機栽培による野菜は色や味が違うため、1 軒の農家で使うとその良さが分かり、次第に周辺の農家へ広がっている。
運営上の課題	収支のバランスを保ち、経営の健全化を図ること。
備考・参考資料	関東農政局 都県別バイオマスの取組事例